

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、事業所独自の理念を作成している	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	町会に加入し、回覧を受けたり、保育園、学校、地域の行事に参加している。又、隣の畑で取れた、スイカやりんごなど頂いて、皆でごちそうになったりする間柄が作られている。利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者や家族等が見やすく解りやすいように理念を掲示している。外出時の写真を載せたり、ホーム便りを配布するなどの取り組みを行っている	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日ごろから近隣の人たちに挨拶をしたりしている。事業所は地域の一員として、町内の草取りに参加したり、地域の商店に食材を配達してもらったり、大学生の実習の受け入れを行ったり、事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元する取り組みを行っている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	災害時の食料や飲料水の備蓄品を用意し、評価を活かした改善に取り組んでいる	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況について、話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。所長はメンバーからの意見の有無に係わらず、意見を引き出す為の働きかけを行っている	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは認定更新の際、お世話になり、交流している。市町村へ、ホームのパンフレットや広報誌を配布している。自己評価や外部評価の結果を提出し報告を行っている。市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護事業や成年後見制度について理解して、必要に応じて、利用者や家族等に事業についての情報提供や事業利用につなげる支援を行っている	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が高齢者虐待防止法に関する理解をしており、管理者は、職員の日々のケアの提供場面を観察するなど、虐待を未然に防ぐようにしている。高齢者虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等について取り決めがある	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、退去する際は不安や疑問が生じないよう十分な説明を行っている。退居の際は十分に説明を行い同意を得ている。退居先への情報提供を行うなどの支援を行っている	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見や苦情を出しやすいように、玄関に投票箱を設置しており、出された意見や苦情を検討し、速やかに対応を行う体制ができている	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は毎月「はるな通信」などで報告している。金銭管理の状況について出納帳に記録し、領収書を添付して毎月報告している（郵送など個々に合わせて報告している）	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見や要望などを話しやすい雰囲気作りを行い、事業所内の苦情受付窓口を明示している。外部の苦情受付窓口も明示している。家族から出された意見や苦情があれば日々のケアサービスに反映させていく取り組みを行っている	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は大事な決定に関する事など、月1回は事業所会議で提案を聞かせたり、職員から出された意見を反映する仕組みが整えられている	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化に対応できるようになっており、職員の急な休みにも代替りの職員が確保できている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
17	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
18	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
19	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
20	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった時には、利用希望者や家族と面談するなど直接話を聞く機会を設けており利用を前提として話を進めるのではなく、まずは利用希望者の身体状況や思い、希望、ニーズ、家族の希望、ニーズを把握するように努めている。信頼関係を築くことを意識しながら対応している	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、本人と家族がまず必要としている支援を見極め、対応できることには、柔軟に対応している。必要に応じて他のサービス機関に移行する支援を行っている	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し、納得した上でサービスを利用する為に、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族と話し合いを十分に行い、双方の意向にそったサービス開始となるよう配慮している。日常使用していた家具など持ち込んでもらったりしている	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と喜怒哀楽を共にし、一緒に団子や赤飯を作りながら、本人から昔経験した事を聞きだして学んだり、得意分野で力を発揮してもらい、利用者と職員が共同しながら生活している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。利用者を共に支える関係を作るようにしている		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は利用者と家族のこれまでの関係や、双方への思いを把握している。家族との関係がとぎれないよう、毎月「はるな通信」発行し、日々の利用者の様子を報告したり、利用者と家族の絆を大切にしている		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで関わってきた人との交流を継続できるよう支援している。知人の方達が尋ねてきたり、希望により親戚宅へ出かける支援を行っている		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者同士の仲のよし悪しなどを把握しており、利用者が孤立しないよう配慮している。利用者同士がより良い関係作りにつなげる働きかけを行っている		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を利用者や家族に示している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや希望、意向を把握するように努めている。必要に応じて、本人の事をよく知っている家族や関係者から情報収集を行っている	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のプライバシーに配慮しながら、利用者の背景に関する情報の大切さを家族に伝えると共に、利用者の生活歴などについて情報収集を行っている	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の1日の暮らし方や生活のリズムを把握している。又、日々の生活などを通して、利用者の出来る事、わかる力を把握している	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為、可能な限り利用者や家族の意見を聞くよう努めている。全職員の意見や気づきを基に職員間で十分に話し合い、介護計画を作成している。利用者本位の個別具体的なものになっている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示している。実施期間終了後は見直しを行っている。実施期間に関わらず、利用者の身体状況の変化や利用者や家族等の希望変化時には随時見直しを行っている。見直しを行う際は、職員だけでなく、必要に応じて利用者や家族等の意見を収集する等の再アセスメントを行っている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりについて、日々の暮らしの様子や身体状況について記録している。記録の内容を全職員が共有する事ができる仕組みを整えている。介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物の支援や行事参加支援（運動会、ドライブ、野外食、夏祭り、敬老会など）、通院支援を行ったり、柔軟に支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員の存在を把握し、協力していただいている。利用者の意向に応じて市の観光館など地域資源を活用している。利用者が安心して暮らせるよう消防署等からの協力が得られるようにホットラインが設置されている		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事業所以外のケアマネジャー等との連携を図っている。他のサービスとして法人で契約している理容サービスを利用している		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントなどについて、現時点では必要性は無く、行っていない	○	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントなどについて、地域包括センターと協働していきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診の他、体調変化や心配ごとのある時等には、かかりつけ医にいつでも気軽に相談している。受診結果は利用者や家族等との共有が図られている		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医に受診している利用者もいて、その医師に職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者を良く知る看護職員と気楽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と利用者に関する情報交換や、状況に応じて早期に向けた話し合いを行っている。退院に向けた支援体制について、家族も含めた話し合いを行う体制が整えられている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的な健康管理や急変時の対応について利用者や家族、理事長や職員、かかりつけ医、主治医と話し合いを行い、意思統一を図っている		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期には対応していない	○	今後の変化に備えて検討している

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	全職員は、利用者が別の場所に移り住むことによるダメージを理解している。ダメージが最小限になるよう、プライバシーに配慮した上で、利用者の状況や習慣、好み、これまでのケア方法等について、移行先への詳細な情報提供をおこなっている	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者の言動を否定せず、利用者の羞恥心に配慮した声かけし、年長者と接する上で常識的、適切な声かけを行い、プライバシーに配慮して業務を行い、職員は個人情報保護法について概ね理解している。個人情報に触れる際は事前に同意書を頂いており、利用者への声かけや対応について事業所全体で日々の確認や改善に向けた取り組みを行っている	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	家族等からの情報により、利用者の好きなヤクルトを配達してもらっており、意思表示できない他利用者も欲しそうな表情する為、家族了解の下ヤクルトを配達してもらったり、希望を把握するようにしている。ドライブの場所など、複数あげて、選択をしてもらったり、自己決定の支援をしている	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	利用者の言動を急がせたりせず、見守りしながら助言したり、業務を優先することなく、利用者の転倒防止、訴えを優先している。利用者のペースやその日の希望、身体、精神状況に合わせ、声かけをしながら柔軟な支援を行っている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	利用者の個性や希望を尊重し、外出時など利用者の好みで衣服を選んだりしてもらい、化粧道具も用意しおしゃれを楽しんでもらっている。衣服や、整容のみだれは、さりげないサポートをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で採れた野菜（なす、きゅうり、じゃがいも、枝豆）や果物（ぶどう、すもも）を食べさせたり、食事が楽しみなものになるようにしている。食べこぼし等へのサポートも行っている。朝食と行事食は職員も一緒に食事をとって、楽しむ事が出来る支援をしている		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ヤクルトを好んで飲んでいる利用者は数名いるが、糖尿病のある利用者には、糖分の少ないヤクルトを選んであげたり、状況に合わせて楽しめるようにしている		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを記録、把握したり、パターンに応じて、事前誘導を行うなど自立に向けた支援を行っている。尿意や便意の確認時、誘導時、失禁時の対応は、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、他の入居者に気づかれないよう速やかに行き気持ちよく排泄出来るように支援している		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣や好みを把握している。入浴日、時間帯などの意向は取り入れていないが、利用者の羞恥心や負担感を理解した上で支援したり、拒否をする利用者に対しては声かけの対応などの工夫を行っている。又、利用者の習慣に配慮しながらも、つかりりすぎなどに対し適切な支援している		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出、行事、訪問者の有無等、その日の疲れ具合に応じて、柔軟に休息させたり、一人一人の睡眠パターンを把握している。眠れない利用者には原因を見極め、1日の生活リズムを整えるようにしている。必要に応じて、家族や医療機関と相談しながら眠剤の服用などについての調整を行っている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望、力量等を把握しており、利用者一人一人に合った、踊り、洗濯、掃除、水やり、野菜の収穫などを取り入れ、気晴らしの支援をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者自らが金銭管理を行うことの重要性を理解している。利用者の力量や希望に配慮しながら、利用者等が、金銭管理を行えるよう支援している（現在は2人）。金銭管理を行っていない利用者でも、買い物時に、レジで支払を行ってもらおう等の支援している		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや気分転換に繋がるよう散歩や買い物など、外に出る機会を作っている。身体状況に合わせて、移動時は足腰の悪い人には車イスを用意し、歩ける人に手引きの介助をし、利用者の希望を取り入れ、個別ドライブなどさせている。距離に配慮した支援、利用者のその日の状態にあわせた支援を行っている		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	青森の妹は来られないので会いたいと希望があった際に職員同伴で出かけたたり、行きたい場所の希望が出されない場合は、職員の働きかけにより話ししてもらえるよう取り組んでいる。一人一人の願いを叶えるよう又、全員で行けるドライブを計画して普段行けない場所へ外出支援している		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかけたり手紙を出す場合には、その利用を支援している。会話内容や手紙の内容が他の利用者に知られないよう、プライバシーに配慮している		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問時には声かけを行う等、過ごしやすい雰囲気作りを行っている。家族等からの宿泊の希望に応じる体制が整えられている。家族等が宿泊する場合には、寝具や食事の提供を行う用意がある。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束の内容やその弊害について理解している。身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。やむを得ず特定の利用者に、介護衣を着用した時もあったが、解除することを目標に鋭意検討し、その際は、家族に説明を行い、同意を得ている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠しておらず、利用者が自由に入 入りにできるようになっている。外出傾向を察知し た時は、職員が付き添うなどの支援を行っている。 無断外出に備えて、近隣からの協力が得られるよ う、運営推進会議の際、町会長を通してお願いし、 鍵をかけないケアに取り組んでいる		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して 利用者の存在や様子を把握し、安全に配慮してい る		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の保管場所、管理方法は決めて いる。状態に応じて、裁縫箱など自己管理してい る方もおり、状態を見ながら危険を防ぐ取り組み を行っている		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在の利用者の状況に応じて、想定される事故を 職員間で検討している。ヒヤリハット報告書、事 故報告書の様式が整備されている。事故やヒヤリ ハット事例は全職員に周知している。報告書は全 職員が常時確認できる場所に保管している。事故 防止に取り組んでいる		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間の対応を含めて、緊急時対応マニュアルが作 成されている。全員が応急手当や救急救命の研修 を受けている。初期対応出来るよう取り組んでい る		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利 用者が避難出来る方法を身に付け、日頃より、地 域の人々の協力を得られるよう働きかけている (避難訓練は毎月行われ、防災訓練は地域住民の 協力を得て年2回行われている)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の体調の変化や異変の兆候を見落とさないように努め、気付いた際には記録に残すと共に全職員で共有し、必要に応じて医療機関に相談する等の対応を行っている		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について確認しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。服薬による状態変化時は記録に残すと共に、家族や医師に報告し、話し合いを行っている		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための水分補給と健康体操など身体を動かす働きかけなどに取り組んでいる。下剤を使用している場合は個々に合わせた使用量や頻度となっている。安易に薬に頼らない工夫をしている		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の手入れの必要性を全職員が理解している。毎食後に口腔内洗浄や入れ歯の手入れなどを行っている。一人一人の習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行い、能力に応じた支援を行っている		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が1日を通じて確保できるよう、一人一人の状態を把握し、習慣に応じた支援をしている。法人の栄養士が立てた献立となっており、必要カロリーが採れている。全員の食事摂取量は毎食記録し、必要に応じて栄養士等の専門家から指導助言を得られる体制となっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス、新型インフルエンザなど）。保健所から講師を招き学習の機会を設けている。家族へ、「はるな通信」で周知したこともある		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防の為に、生活の場としての調理器具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている（殺菌灯付き包丁差し、食器乾燥機も設置している）		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	隣接している施設に、町内の方たちに陶芸室を開放して、自由に入出入りしていただいたりしており、ついでに足を延ばしてくれる方もいる		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	sa		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間で、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう、ロビーにテーブルやソファを置いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居前から愛用していた家具、日用雑貨、ベッ ド、冷蔵庫等、なじみの物を持参してきている 利用者もおり、居心地良く過ごせるような工夫をし ている		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	臭いや空気よどみが無いよう、事業所内の換気 を定期的に行っている。事業所内に温、湿度計を 設置し、適宜確認しながら適切な温、湿度管理を 行っている。利用者に合わせた温、湿度調節を行 う配慮している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の安全を考慮し、要所に手すりを設置して いる。生活空間で転倒につながる原因がないか確 認している。物干しの高さなどは高齢者でも使用 しやすいよう配慮している。必要に応じて車イス を用意して活動性を維持するよう配慮している		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人一人のわかる力を見極め、必要な目印をつけ たり、混乱を防ぎ自立して暮らせるよう工夫して いる		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	玄関先でプランターに花を植えたり、利用者が水 やりをしたり、畑の野菜をとったり、利用者が その人らしく過ごせる場として、事業所の敷地内 を活用している		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

こよみの行事に合わせて食べ物を作って、皆一緒に食べたり、個別ドライブをしたり、楽しみごとの支援をしている。
 関連施設の保育園のお遊戯会や、音体フェスティバル見学に参加したり、特別養護老人ホームの運動会、敬老大会、バザー、大野外食などに招待されて出かけたり、又、町内の敬老会や夏祭りにも招かれて参加しており、地域に触れ合える支援を行っている。